



モモヒメヨコバイの発生と現状

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
植物防疫研究部門

みしろこうじ
三 代 浩 二

はじめに

ヨコバイ類にはイネを加害するツマグロヨコバイや茶を加害するチャノミドリヒメヨコバイなど、多くの農業害虫が含まれる。果樹ではカンキツやリンゴなどの主要9樹種で37種が害虫として記載されている（日本応用動物昆虫学会，2006）。近年，被害が多数報告されているモモヒメヨコバイ *Singaporea shinshana* (Matsumura, 1932) は，中央アジア原産のヨコバイ科 Cicadellidae ヒメヨコバイ亜科 Typhlocybinae に属する昆虫である（林ら，2016）。和名は紙谷（2021）により新称として記載された。本種に関する報告は国内外ともに少なく，その生態に関しては未解明な部分が非常に多い。本稿では，これまで報告された知見を参考に国内での発生と防除の現状について紹介する。

I 形態と被害

成虫は，体長3～3.5 mm，体色は薄い黄緑色で半透明の翅をもち（図-1），頭頂部に特徴的な黒点がある（図-2）。幼虫は黄色～黄緑色で，幼虫が成育している葉には白い脱皮殻が残されている（図-3）。

加害された葉はかすり状に色が抜ける（図-4）。この症状はウメやサクラでは被害が進むとオウトウハダニの被害痕に似てくるので葉裏を観察して区別する。本種は個体群密度が高くなると，葉全体が吸汁されて白っぽくなり落葉する（紙谷，2021）。現時点では未解明であるが被害が累積した場合は樹勢への影響が懸念される。

II 寄主植物

国内で都府県から発表された本種に対する特殊報（後述）では，ウメ，モモ，スモモ，アンズ，オウトウ，ハナモモ，ハナウメでの発生が報告されている。また，和歌山県での本種の越冬調査では，ウメ園地周縁のサンゴ

ジュとヒサカキで成虫が捕獲された（下村，2022）。これらの常緑樹を吸汁しているのかどうか不明であるが，越冬場所として利用されている状況から，今後注意する必要があるだろう。

中国では，モモ，ナシ，サンザシ，リンゴ，ポポー，ポプラ，その他バラ科植物を加害する（Cao et al., 2014）。韓国では2007年にウメでの深刻な被害が発生した（Lee and Chung, 2011）。また，2016年と2017年にバラ科のサトザクラ，カリン，バラ，ムクロジ科のイロハモミジ，グミ科のアキグミ，ニレ科のケヤキ，マツ科のアカマツ



図-1 モモヒメヨコバイ成虫



図-2 モモヒメヨコバイ成虫の頭頂部
（農研機構 井上広光氏撮影）

Occurrence and Present Status of *Singaporea shinshana* (Matsumura). By Koji MISHIRO

（キーワード：モモヒメヨコバイ，小粒核果類，ウメ，モモ，有効薬剤，発生）